

KOSEN の窓

近年、全国的に空き家問題が深刻化しています。総務省による平成25年住宅・土地統計調査によると、空き家数は820万戸に上ります。総住宅数6063万戸に占める割合は13・5%と過去最高になりました。

本校が立地する大牟田市内を見渡しても、空き家や空き店舗が目立つように感じている方も多いと思います。すでにあるものを、いかに利用して

いくかという視点が、とても重要な時代になってきました。

空き家対策に関しては、空き家そのものを地域の財産と捉え、積極的に活用を図ろうという動きがあります。空き店舗や、空き家を地域の交流

た動きが活発な地域として、全国的にも有名になりつつあります。

本校においても、地域の空き家問題に対して、建築学科の学生が大牟田市内の空き家数の調査

地域の課題に取り組む中での学び 〜深刻化する空き家問題〜

有明高専創造工学科助教

正木 哲

や空きビルなどは、それまで積み重ねてきた時間が生み出す特有の雰囲気や魅力を位置付け、それを生かしながら入居者自身の手によって新しい空間に再生するなど、新しい試みも増えています。

実は、大牟田市はそうし

た空き間にすれば若い世代が入居したくなるのか。学生自らが考えながら計画し、プロの木工の監修・指導を受け、実際に改修工事を行いました。

床工事の様子 (二つの部屋をワンルーム化・地場産のスギ板を使用)

有明高専